

V 研究活動と研究環境

1 専任教員の教育・研究業績

(表24)

所属 英語キャリア学科	職名 教授	氏名 石原 敬子	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
I 教育活動			
教育実践上の主な業績		年月日	概 要
1 教育内容・方法の工夫 (授業評価等を含む)			
1) 授業で使用する素材を事前に割り当てた担当者が音読	2015(平成27)年	毎週授業で順不同に使用するテキストの素材を事前に割り当てた担当者が音読し、それに基づき他の学生が聴解テストを受ける。担当以外の学生に「伝わる英語」を意識して練習してくるため、担当学生の音読の精度が上がると同時に、他の学生も集中して英語を聴く練習となった。	
2) 速音読課題 (約隔週)	2014(平成26)年～	演習受講者に対し、週ごとに異なる100語程度の素材を授業内に音読練習し留意点を確認した上で、各自に速音読練習とその記録を課した。より滑らかな発話及びリスニング力を鍛えることを目的とする。	
3) 早口言葉練習課題 (毎週)	2014(平成26)年	英語音声学の受講者に対し、毎週授業内で練習をする早口言葉をさらに各自で練習し、翌授業日までに個人的に担当者に音読を聞かせ、担当者からのコメントを記録していくことを課した。定期的に個別に評価を受けることで、各自の弱点が明確になる。	
4) 英語・日本語にリメイクされた日本語・英語の歌と各原曲との比較	2013(平成25)年	演習の授業で、英語と日本語の音声的特徴から生じるリズムの違いを理解するために、英語にリメイクされた日本語の歌、日本語にリメイクされた英語の歌をそれぞれ原曲と比較して研究した。	
5) 演習におけるパワーポイントを使用した発表	2012(平成24)年～現在	演習で課す各自の発表時に、パワーポイントを使用することを条件とする。自分でパワーポイントの使い方を工夫するだけでなく、クラスメートの発表を見ることから、より効果的な発表ツールの使い方、発表の仕方を学ぶことを目的としている。	
6) 日本語の歌謡曲英訳	2012(平成24)年	学生が、選んだ日本語の歌謡曲を分担して英訳し、それを曲に合うようにアレンジし、English Festivalで披露した。日本語の「拍」と英語の「音節」によるリズムの感じ方・教え方の違いを実感する機会となった。	

7) TOEIC関連語彙のテスト (毎週)	2011(平成23)年～現在	演習(3・4年次)の時間に毎時間TOEIC関連語及び例文を覚える課題を与え、翌週に小テストを実施する。解答確認は各自でさせ、その後全体で語彙・例文を音読する。音声的学習によりTOEICの力を上げることを目的としている。
8) 対話の暗唱と発表の実施 (毎週)	2011(平成23)年～ 2012(平成24)年	英語音声学の授業で理論的・実践的に学習した内容を実践する目的で、毎時素材として使用する対話を翌週までに各自暗誦、発表させる。対話の相手は英文を使った3分程度のゲームで決め、異なる相手と対話ができるようにした。
2 作成した教科書、教材、参考書		
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等		
1) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.9 ～理論と実践で英語発音の基礎を確認する その2～ (セミナー)	2015(平成27)年7月18日	前半は英語の口を作る練習(子音・母音)を中心に進め、後半は、会話の上で一つひとつの発音よりも重要な役割を果たす「英語のリズム」に焦点を当てた練習も行う。大人の学習者に必要な基礎的理論と実践によるセミナー。(つなぎすとサロン主催 第173回セミナー)
2) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.8 ～理論と実践で英語発音の基礎を確認する～ (セミナー)	2015(平成27)年3月8日	前半は英語が「英語らしく」聞こえるための基本となる「英語の子音・母音」の特徴を確認し、後半は、会話の上で一つひとつの発音よりも重要な役割を果たす「英語のリズム・イントネーション」に焦点を当てた、大人の学習者に必要な基礎的理論と実践によるセミナー。(つなぎすとサロン主催 第142回セミナー)
3) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.7 ～音を感じながら英文を楽しむ～ (セミナー)	2014(平成26)年11月2日	「キラキラ」「ギラギラ」という音が「光る」イメージをもつように、英語においても「gl-」という音が「光る」イメージをもつ。また母音の違いによりその音が表す物の大きさが違って聞こえる例もある。そのような音のイメージにふれ、音を感じながら英文音読練習をし、最終的に各参加者が絵本朗読を実践した。(つなぎすとサロン主催 第109回セミナー)
4) 神戸海星サマースクール2014小学校英語実践講座・免許状更新講習「A. 英語運用力講座(小学校英語活動に役立つ発音トレーニング)」(ハワード講師と共同)	2014(平成26)年8月20日	日本語として日常的に使用されるカタカナ語と実際の英単語との音と比較し、リズムの違いや発音の違いを観察したり、英語の発音を示すためのカタカナの使用についてディスカッションを行った。また、大人から子どもまであらゆる世代に親しまれる歌の英語版・日本語版の比較からもリズムの違いを確認した。

5) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.6 ～「なんか違う」を分析する～ (セミナー)	2014(平成26)年7月20日	英語発音ポイントやその上達方法について悩む英語学習者は少なくない。そこで、英文特有のリズムの特徴について単語レベルから文章レベルまで順を追って理論的に説明し、さらにイントネーションの基礎について説明しながら、具体的に実践練習を行った。(つなぎすとサロン主催 第84回セミナー)
6) 石原敬子の英語発音セミナー(名古屋編)～徹底的にリズムにこだわってみよう♪～ (セミナー)	2014(平成26)年5月31日	英語の音声面での最も特徴的な要素の一つであるリズムについて理解し、実践に繋げるヒントを体得することを目的としたセミナー。英語特有のリズムを作り出す要素は一つひとつの単語にあり、その単語が置かれた環境(前後の単語や文中のどの位置にあるか等)にある。複数のNursery Rhymes(いわゆる「わらべうた」)を使用し、英語の基本的なリズムを実践した。(つなぎすとサロン主催 第71回セミナー)
7) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.5～徹底的にリズムにこだわってみよう♪～ (セミナー)	2014(平成26)年3月9日	英語の音声面での最も特徴的な要素の一つであるリズムについて理解し、実践に繋げるヒントを体得することを目的としたセミナー。英語特有のリズムを作り出す要素は一つひとつの単語にあり、その単語が置かれた環境(前後の単語や文中のどの位置にあるか等)にある。複数のNursery Rhymes(いわゆる「わらべうた」)を使用し、英語の基本的なリズムを実践した。(つなぎすとサロン主催 第48回セミナー)
8) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.4～声でいろいろな気持ちを表現してみよう～ (セミナー)	2013(平成25)年9月22日	「明るく親しみやすい雰囲気の話 vs. 興味無さげな話」「確信を持った話 vs. 自信の無い話」「相手を思いやる話 vs. 上から目線の話」など、話す内容をどのような気持ちで相手に伝えたいかにより、英語の話し方・読み方は異なる。英語の抑揚(イントネーション)の基本的な特徴を解説した上で、用意した対話を受講者がグループごとに練習し、発表した。(つなぎすとサロン主催 第24回セミナー)
9) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.3～音読・黙読が楽になる第一歩 (セミナー)	2013(平成25)年7月7日	英文をどのように読むと相手に分かりやすく且つ英語らしい話になるかを、「チャンク(区切り)」と「呼吸」という2つのポイントに絞って理論的に解説し、実践練習をした。息の使い方については、英語話者の呼吸・英語学習者の呼吸を音声分析ソフトを用いて視覚的に確認した。(つなぎすとサロン主催 第19回セミナー)
10) 「英語学習における音読の有用性」(口頭発表)	2013(平成25)年3月27日	英語学習者が発音を習得することは、英語での会話において自分の英語を理解してもらえる、または相手の英語を理解することができる、といういわば「当たり前」の目標のためだけでなく、英語学習そのもののために有用である、ということ、主に文献調査した内容を基に述べ、いくつかの音読練習の方法を提示した。(言語文化研究所 第3回研究発表会)
11) 石原敬子の英語発音セミナーVOL.2～音読練習が楽しくなる第一歩 (セミナー)	2013(平成25)年2月24日	リスニングや音読練習をする上でのヒントを体得することを目的とし、英語音声面のポイントを「区切る」「口を動かす」「リズムに乗る」「抑揚をつける」「音の変化に注意する」の5つに分けて解説し、実践練習をした。(つなぎすとサロン主催 第11回セミナー)

12) 石原敬子の発音セミナー ～音でつながる～ (セミナー)	2012(平成24)年9月2日	英語のリズムや音に敏感な口と耳を作ることを目的とし、英語学習をする上で音読が有用である理由を理論的に説明した後に、早口言葉を利用して受講者がグループ毎に練習、発表をした。その過程で、英語の音声的な特徴について実践を交えて解説をした。(つなぎすとサロン主催 第3回セミナー)
4 その他教育活動上特記すべき事項		
1) 県立高校におけるTOEIC対策講座 (講師)	2016(平成28)年1月～3月 (3日間)	県立西宮北高等学校からの依頼により、高校2年生(30名)対象に3コマのTOEIC対策講座を実施した。TOEICテストの特徴及び講座終了後の学内TOEICに向けた学習方法、今後継続して英語学習をする上でのポイントについて講義をした。
2) 第13回TOEIC®テストスコアアップ指導者養成講座 (参加)	2016(平成28)年2月20日 - 21日、3月5日-6日 (4日間)	アルク本社で実施されるTOEIC指導者養成講座。参加資格が「TOEIC900点以上またはTOEIC指導歴がある者」であるため、その道のプロが多く参加しており、質の高い刺激的なセミナーである。模擬授業やグループ討議等を通して多くのことを学んだ。セミナー終了後も、特に2016年5月から実施される新形式テストについて情報交換及び勉強会を継続している。
3) 県立高校におけるTOEIC対策講座 (講師)	2014(平成26)年1月～3月 (4日間)	県立西宮北高等学校からの依頼により、高校2年生(40名)対象に5コマ、英語科教員対象に1コマのTOEIC対策講座を実施した。TOEICテストの特徴及び講座終了後の学内TOEICに向けた学習方法、今後継続して英語学習をする上でのポイントについて講義をした。
4) 第10回TOEIC®テストスコアアップ指導者養成講座 (参加)	2014(平成26)年1月25日 - 26日、2月8日-9日 (4日間)	アルク本社で実施されるTOEIC指導者養成講座。参加資格が「TOEIC900点以上またはTOEIC指導歴がある者」であるため、その道のプロが多く参加しており、質の高い非常に刺激的なセミナーである。模擬授業やグループ討議等を通して多くのことを学ぶことができ、セミナー終了後も情報交換及び勉強会を継続している。
5) 第9回TOEIC®テストスコアアップ指導者養成講座 (参加)	2013(平成25)年2月16日 - 17日、3月2日-3日 (4日間)	同上
6) 第8回TOEIC®テストスコアアップ指導者養成講座 (参加)	2012(平成24)年2月12日、25日-26日 (4日間のうち初日欠席)	同上
7) 第7回TOEIC®テストスコアアップ指導者養成講座 (参加)	2011(平成23)年2月12日 - 13日、26日-27日 (4日間)	同上

8) 第8回TOEICまつり (講師)	2011(平成23)年9月23日	一般向けTOEICセミナー。TOEIC指導の専門家2名と共に講師を務めた。TOEICの素材を使って、楽しみながら英語力とTOEICスコアを伸ばすアクティビティを実施した。
9) 第7回TOEICまつり (講師)	2011(平成23)年7月3日	一般向けTOEICセミナー。TOEIC指導の専門家3名と共に講師を務めた。TOEICの素材を使って、楽しみながら英語力とTOEICスコアを伸ばすアクティビティを実施した。
10) 第2回海星TOEICフェスタ (講師)	2011(平成23)年6月11日	7月の学内TOEICに向け、学生向けにTOEICの勉強をするセミナーを開催し、TOEIC指導の専門家と共に講師を務めた。楽しみながら英語力とTOEICスコアを伸ばすアクティビティを実施した。

II 研究活動

著書・論文等の名称	単著・共著の別	発行または発表の年月 (西暦でも可)	発行所、発表雑誌 (及び巻・号数) 等の名称	編者・著者名 (共著の場合のみ記入)	該当頁数
著書					
論文					
「英語学習における音読の有用性～音読と脳のはたらき～」	単著	2014(平成26)年3月	『言語文化研究』, 創刊号		55頁～66頁

III 学会等および社会における主な活動

国際英語発音協会 理事 (2015 (平成27) 年9月～現在)	年3回大阪及び東京で実施される「発音検定」公開テスト及び随時実施されるオンライン検定試験実施後、必要に応じて審査に携わっている。
国際英語発音協会 理事 (2012 (平成24) 年9月～2015 (平成27) 年8月)	大阪及び東京にて毎年3回の「発音検定」を実施しており、それぞれの企画及び主に大阪開催時の運営を担当している。
国際英語発音協会主催「英語発音セミナー」 (2014(平成26)年1月19日)	理事を務める国際英語発音協会主催のセミナー。(於 東京) 理事長による「母音の発音方法とT音の変化」と題する講演に続き、もう1名の理事と共に「発音検定のウラ側をちょっとのぞき見コーナー」を担当。発検に音読問題として出題されていた「Little Red Riding Hood」の発音レッスンや、毎日の学習や発検受験とレベルアップにすぐに役立つ情報について話した。